

第46期 (社) 長野市開発公社事業報告書

1 総括

当期は、昨年度からの新型インフルエンザの影響や、厳しい雇用情勢が依然として続いている中、世界的経済不況の影響からようやく持ち直しの動きが見られるようになり、本格的な景気回復に向かうことが期待され始めましたが、雪解けの遅れや夏期の酷暑、年末年始の雪不足などの気候条件に加え、秋以降は、誘客に結びつく大型連休がなく、景気回復も足踏み状態となるなどの要因も加わり公社にとって昨年度に続き厳しい経営環境となりました。

そのような中で、公社では、各施設において様々な工夫を凝らした集客活動を展開し、「真心・感謝・親切」を基本とした利用者サービスの向上に努めてまいりました。

特に受託2年目となる戸隠スキー場では、注目の企画となった「女子会」やビーチバレーボールの人気選手を招いての「雪上バレーボール大会」の開催など積極的な集客営業活動を展開し、2月までは、昨年度を上回る集客実績を上げました。

また、各種教室が好評なサンマリーンながのでは、酷暑など天候の影響も少なく最盛期に休館が入った昨年度と比較しておよそ9,300人の利用者増となりました。

茶臼山動物園は、夏の酷暑と昨年のような9月の大型連休がなかった影響により、入場者数は、昨年度には届きませんでした。サマーナイト Zoo や施設の社会貢献などを目的に新たに開催したドリームナイト・アット・ザ・Zoo など各種イベントが好評で、入場者数も2年連続で20万人を超えました。

しかし、3月11日に起こった東日本大震災、また栄村を中心とする地震は、長野市内観光客の3月利用者数が昨年度と比べおおよそ45%減になってしまうほどの影響をもたらし、当公社においても戸隠スキー場、飯綱高原スキー場をはじめ、アゼイリア飯綱や松代荘などの宿泊事業の3月期が大幅な減収、減益となって決算に大きな影を落としました。

一方公社所有地の等価交換に伴い、所有土地の再評価を行ったところ簿価とおおよそ7千500万円の差益が生じたため、これにより平成22年度の公社全体の損益は、おおよそ180万円の黒字決算となりました。

個別の損益においては、東日本大震災・栄村を中心とする地震による3月期減収の影響が大きかった戸隠スキー場、松代荘及びアゼイリア飯綱のほか、酷暑の影響を受けたリバーフロントスポーツガーデンなどの施設が赤字決算となりましたが、茶臼山動物園のほか、職員が直営で修繕を行うこと等により費用を圧縮した飯綱高原スキー場、天候の影響を受けず施設利用ができたサンマリーンながの、昨年度に比べ入場者数が増加し、大型遊具の回数券の売れ行きが好調であった城山動物園などの施設が黒字となりました。

公益法人制度改革への対応については、概要把握や動向調査等を行なってまいりましたが、平成23年度において、それらを分析・検討を行なうとともに外部専門業者へ一部業務を委託し、平成25年4月の移行を目標に本格的な移行作業を進めることといたしました。

(1) 一般会計

ア 指定管理事業等

長野市から指定管理者として指定された施設について、安全で快適に利用できるよ

うに努めるとともに新たなサービスの提供を含むイベントや健康増進の教室の開催等各種自主事業を積極的に実施し、集客に力を入れた効率的な運営を図ってまいりました。

(主な施設)

戸隠スキー場は、オープン時は、雪不足により稼働できるリフトを制限しての苦しいスタートでしたが、その後は十分な積雪に恵まれました。営業面では、「女子会プロジェクト」のほか、「クレープ店オープン」や「カフェやなぎらんのリニューアル」、宿泊施設のアゼリア飯綱とのパック商品販売など利用者増を図る積極的な営業展開を行い、3月の震災前までは、昨年度を上回る営業成績でした。

飯綱高原スキー場では、年末年始の最盛期に雪不足のため圧雪車が入れない状況が続くなど厳しい状況でしたが、戸隠スキー場と同様に宿泊施設のアゼリア飯綱とのパック商品販売など利用者増を図る積極的な営業展開を行い、3月の震災前までは、昨年度を上回る営業成績でした。震災後は、営業終了日を繰り上げるなどして電力消費を抑えると共に、経費の削減を図りました。

サンマリーンながのでは、従来からの健康増進プログラムやヨガ及びマタニティピクス等多彩な教室が好評であったことに加え、清掃センター炉の改修に伴う休館が最盛期を避けて行われたことなどから入館者数、収益ともに昨年度を上回りました。

リバーフロントスポーツガーデン運動広場については、天候不順や酷暑により客足が伸びず、更に芝の傷みなども加わり利用者が昨年度を割り込みました。

茶臼山動物園では、春・秋の動物園まつりのほか、フォトコンテスト、写生大会、サマーナイトZooなど各種イベントを身近な動物園として大勢の入園者に参加してもらえるよう実施しました。

しかし、夏の酷暑や秋の大型連休がなかったことから入場者数・売り上げ共に昨年度を割り込みました。

城山動物園では、夏の酷暑や1月2月の降雪の影響を受けましたが、イベントの充実やマスコミへの情報提供を積極的に行なうとともに、大型遊具の回数券を発売するなど収益増加策を実施したことから、入場者数、収益共に昨年度を上回りました。

[利用状況]

施設名	利用者数	前年度比
戸隠スキー場	100,148人	91.68%
戸隠キャンプ場	38,003人	94.73%
牧場	14,624人	81.43%
飯綱高原スキー場	39,389人	70.37%
ハイランドホール飯綱	2,608人	121.36%
飯綱高原運動広場	3,253人	65.86%
飯綱高原キャンプ場・ボート場	10,057人	110.53%
保健保養訓練センター	3,947人	99.32%
松代老人憩の家	38,759人	94.17%
サンマリーンながの	175,623人	105.60%

施設名	利用者数	前年度比
リバーフロントスポーツガーデン	1,417 団体	92.74%
茶臼山動物園	200,195 人	97.14%
茶臼山マレットゴルフ場	9,129 人	96.44%
城山動物園	280,080 人	102.60%

※ 利用者数は人数、リバーフロントスポーツガーデンのみ団体数

イ 宿泊事業

(1) 国民宿舎松代荘

「飽きさせない」、「忘れられない」、「再び訪れたい」温泉となるよう、松代温泉ブランドをより多くの方々に知っていただき、より高めていくため、テレビ放映をはじめ各種情報媒体へ積極的に情報を提供し取材対応等をしてまいりました。

また、松代イヤーに併せて北大名誉教授の阿岸先生他による温泉シンポジウムを施設で開催し、地元住民のほか温泉関係者の参加もあって松代温泉ブランドの定着とともに地域の活性化にも役立ちました。

併せて、お越しになったお客様へ松代温泉の特異泉質を活かした健康療養学に基づくアドバイスを温泉療養指導士の資格を持つ職員が行い、松代温泉の効能を広く理解いただくとともに、松代温泉ブランドの定着を図っています。

更に、施設内ロビー等での地域文化活動の紹介や、売店等での地元の特産品販売、地元を中心に発足している「松代温泉友の会」の活動支援など効能高い天然温泉を軸として、地域に愛される施設づくりに継続的に取り組んでいます。

昨年度の善光寺御開帳による宿泊者増の維持確保を目指して取り組んでまいりましたが、景気回復の遅れや夏場の酷暑による温泉離れ等により宿泊者数は、昨年度を割り込みました。一方気軽にご利用いただける日帰り入浴・休憩の利用者数は、昨年度より7%ほど増加しました。

宿泊者減少に対応し、労務及び施設管理の徹底等により経費節減に努め、損益への影響をできるだけ少なくなるよう努めました。

<国民宿舎 松代荘>

宿泊利用者	22,786 人	(前年度比 95.3%)
休憩利用者	147,784 人	(前年度比 107.4%)

(2) いこいの村アゼィリア飯綱

高原学校の受け入れについては、5月下旬から実施し、受け入れ数は、25校で4,746人でした。

平成22年度から厨房・応接部門を長野京急カントリークラブへ委託し、経費の削減とともにゴルフ宿泊パックの企画販売など京急グループとの提携による需要の掘り起こしや知名度アップを図りました。年度当初は、日帰り休憩廃止等の影響に

より利用が伸びず、8月は、学生団体利用がなかったことなどの影響がありましたが、11月から日帰り休憩を本格的に再開したことや例年課題でありました冬季間の需要落ち込みに対しましては、戸隠・飯綱高原両スキー場と共同でスキー宿泊プランの販売など積極的な営業活動を行い、2月の売り上げが昨年度の倍近くとなるなど成果が上がりました。

また、労務管理を始め施設管理の経費節減を図り損益で昨年度と比較し970万円ほどの改善が図られましたが、黒字への転換には届かず全体の収益では、経営改善に向けて引き続き厳しい状況となりました。

<いこいの村アゼイリア飯綱>

宿泊利用者	13,949	人	(前年度比 90.4%)
休憩等利用者	11,569	人	(前年度比 76.1%)

(2) 付帯会計

ア ショートゴルフ場

スポンサーカップの開催や民間ゴルフ練習場とのタイアップ企画等様々な企画を実施し、利用促進と営業活動に力を注いできましたが、夏の酷暑による影響や、芝のダメージなどのほか冬季の降雪によるクローズなどにより利用者・収益ともに昨年度を下回りました。

校庭緑化事業については、朝陽小学校、その他市内保育園などを実施し、着実に実績を重ねてきました。

利用者数	10,479	人	(前年度比 90.56%)
------	--------	---	---------------

イ 売店事業

リバーフロントスポーツガーデンクラブハウス等での長野パルセイログッズ販売の実施や、長野市霊園、指定管理施設内での売店の営業を行ってまいりました。

また、今期AC長野パルセイロがJFL昇格となり、関連商品の売れ行きが良くなったことから、補正予算で対応しました。

ウ 施設貸付事業

湯量等各種調査による温泉の保護及び駐車場の貸付の事業を行ってまいりました。

駐車場貸付事業においては、市の未利用地を活用した臨時月極駐車場と市が設置し公社が運営している時間貸し駐車場により利用者の利便向上を図りました。

○ 温泉配湯箇所

- ・松代荘、老人憩の家、尚和寮、ディサービスセンター、温泉団地共同浴場、寿楽苑、保健保養訓練センター、松代ロイヤルホテル

○ 臨時月極駐車場

- ・平成23年3月31日現在 23カ所 594区画

○ 時間貸し駐車場

- ・鍋屋田駐車場46区画、善光寺表参道市営東町駐車場46区画 の2カ所

(3) 霊園特別会計

霊園管理事業

長野市霊園は経年による修繕費がかさむ中、計画的な再整備を実施し、環境美化に努めるとともに、墓参バスの運行や献花サービスも行ってまいりました。

また、墓地を希望するニーズに応えるため昨年度に引き続き返還墓地の再貸付を実施しました。

○ 新規貸付

・合葬式墓地	共同埋蔵方式	9人
	一定期間個別埋蔵方式	9人

○ 再貸付

・規格統一型	48区画
・自由型	4区画
・壁面墓地	4区画
計	56区画